令和3年度
大阪市NPO・市民活動
企画助成事業

報告書

学習プログラム事例集

まちづくり・市民学習応援コース

子育て・家庭教育応援コース

大阪市教育委員会
大阪市立総合生涯学習センター

は じ め に

社会の急激な変化に対応し、市民が人間性豊かな生活を営むために、現代的社会的課題や、地域社会の課題解決に向けた主体的な学習機会の創出が生涯学習に求められています。

大阪市では、生涯学習を通じて現代的社会的課題に取り組む市民グループやNPOなどを対象に、地域課題解決の学習プログラムを公募し、実施経費の助成や広報、報告会の開催などの活動支援を行うため、「大阪市NPO・市民活動 企画助成事業」を実施しております。

事業の運営にあたっては、実施団体相互のネットワークづくりに留意し、広く事業効果が得られるよう進めるとともに、成果については、区や地域（教育コミュニティ）で活用できるプログラムとしてとりまとめ、プログラムの活用促進を図っております。

今年度はAコース（まちづくり・市民学習応援コース）5団体、Bコース（子育て・家庭教育応援コース）2団体の計7団体に事業を委託しました。

本報告書は、それぞれの団体の取り組みをまとめたものです。本事業が、生涯学習のネットワークの広がりや、市民の生涯学習の新たな展開へとつながることを期待します。

令和4年3月

大阪市教育委員会

大阪市立総合生涯学習センター

令和3年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 実施団体一覧

まちづくり・市民学習応援コース

団体・グループ名	事　業　名	
NPO法人農楽マッチ勉強会	農楽マッチ勉強会 梅田セミナー	… 4
特定非営利活動法人 ペットチャルカの広場	糸つむぎから見えるワタの歴史と未来	… 6
ボランティア講座同好会『ひまわり』	「みんなで楽しく学ぼう、防災の知識!アゲイン」事業	… 8
生涯学習「地域ICTクラブ」連絡会	地域で「ICTクラブ」を始めるための担い手養成講座	…10
特定非営利活動法人フードラボ	離れていても心は“密”に「ふれあい食育=オンライン共食」事業	…12

子育て・家庭教育応援コース

団体・グループ名	事　業　名	
YON kitchen	Let’s enjoy!はじめての食育cooking	…14
特定非営利活動法人子どもセンターあさひ	自分らしく生きる<権利>について学ぼう!2021	…16

Aコース

農楽マッチ勉強会 梅田セミナー

NPO法人農楽マッチ勉強会

事業のねらい 講師である農家及び活動家にとっては、人前でプレゼンする機会を提供し、経営力向上に寄与することが期待できる。参加する都市住民にとっては、農業や食の問題や課題を知って頂く事や、農商工連携の機会を与える。また、セミナーの様子をオンラインで配信し、より多くの方に知ってもらう様にする。

対象	定員	申込者数	参加者数
農業に関心のある方	30人/各回	41人（大人41人 子ども0人）	41人（大人41人 子ども0人）

1 7/18（日）13:30～16:30
「農業における経営論と税務」
「労務管理の捉え方と雇用の基本」

講　師　古池 和弘（税理士）
橋本 將詞（社会保険労務士）

会　場　大阪市立総合生涯学習センター 第2研修室　参加者数　16人

2 10/17（日）13:30～16:30
「NPO法人農楽マッチ勉強会活動報告及びえん農フェスイベント」
「ブレインワークスグループの歩み」

講　師　山本 文則（NPO法人農楽マッチ勉強会理事長）
近藤 昇（（株）ブレインワークス代表取締役）

会　場　大阪市立総合生涯学習センター 第2研修室　参加者数　13人

3 11/21（日）13:30～16:30
「大阪の若手農家を応援しよう」

講　師　芝尾 和樹（堺市農家）
北野 忠清（貝塚市農家）

会　場　大阪市立総合生涯学習センター 第2研修室　参加者数　12人

参加者の声

- 会計の話をあまり聞く機会がなく、大変面白かったです。
- 新しい視点を得る事が出来ました。
- 農家の皆さんがどのような思いで農業経営されているのかよくわかりました。

学習の総括

● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

新たに役員の入れ替わりがあり2名の増加（総勢10名）になったが、事業の実施には問題なかった。新規会員の募集は、セミナーへの新しい方の参加が少なく、低調であった。

事業全体の計画、学習内容・形態について

7月から12月まで毎月1回の6回開催を予定していたが、新型コロナウィルス感染予防の自粛の為、3回の開催しかできなかった。1回は、チラシを作成し開催案内まで行っていたが、急な緊急事態宣言の発令で中止になった。参加者も自粛の影響で少なかったが、参加した方は熱心にメモを取る方が多く、学習効果は十分であった。

地域や他団体・組織との連携について

参加者は、大阪市以外の兵庫、奈良、京都からも参加頂き、地域的な広がりがあった。他団体・組織との連携は、コロナの影響もあり行わなかった。

● 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

講師にとっては、プレゼン能力の向上と自身の事業を振り返る事ができたと好評であった。参加者は、勉強になった、満足したとのアンケート回答を多く頂いた。

● 事業実施後の展望

コロナの収束が見えない中で、人々が集まる事自体にハードルが高まっている。今後は、オンラインも併用したかたちを形成する予定である。

NPO法人農楽マッチ勉強会

活動目的	農業活性化支援
活動紹介	セミナーやイベントを通して農業の課題やがんばっている農家を紹介
活動開始時期	2014年2月
団体構成員数	34人
団体HP	http://noramatch.com

Aコース

糸つむぎから見える ワタの歴史と未来

特定非営利活動法人　ペットチャルカの広場

事業のねらい 近世・近代のワタ栽培の加工・流通を大阪が担ってきた歴史を日本綿業会館など見学して実像に迫る。ワタの繊維から糸を紡ぎだしてみることで伝統産業技術に触れ、衣服の成り立ちを学び、持続可能な繊維資源であるワタとの向き合い方を考える契機とする。

対象	どなたでも	定員	10人	申込者数	13人（大人13人 子ども0人）	参加者数	13人（大人13人 子ども0人）

1　9/8（水）13:30～15:30
「江戸から明治～現代の大阪と綿花」

- **「綿業振興会DVD文化編／『自然・コットン・人間』上映と講演」**

講　師　松下 隆（全国コットンサミット事務局）
会　場　大阪市立難波市民学習センター 第3研修室　参加者数　13人

2　9/22（水）13:30～15:30
「植物としてのワタの生態、糸つむぎの準備」

- **いいワタ栽培に必要なもの**
- **ペットチャルカで綿から糸をつむいでみる**

講　師　明神 敬一（NPO法人ペットチャルカの広場）
会　場　大阪市立難波市民学習センター 第4研修室　参加者数　13人

3　10/13（水）13:30～15:30
「日本の綿花栽培 ペットチャルカで糸をつむぐ」

- **大阪の産業の基礎を作った綿産業**
- **ペットチャルカで単糸・双糸をつむぐ**

講　師　明神 敬一（NPO法人ペットチャルカの広場）
会　場　大阪市立難波市民学習センター 第3研修室　参加者数　12人

4　10/27（水）13:30～15:30
「ワタはどれだけ必要なのか ワタでつくる工芸」

- **ワタと人との持続可能なより良い関係の築き方**
- **ワタの木でアクセサリーづくり**

講　師　平野 由美子（アクセサリー工房 由美子）
会　場　大阪市立難波市民学習センター セミナー・展示室　参加者数　11人

5　11/10（水）11:00～13:00
「大阪の近代紡績の足跡を訪ねる」

- **日本綿業会館の見学と講演**

講　師　松下 隆（全国コットンサミット事務局）
会　場　日本綿業会館　参加者数　11人

参加者の声

- 綿花から織物までの過程が十分に理解できた。
- 綿業会館が素晴らしかった。講座の内容も興味深いものでした。
- 綿の歴史や綿そのものの性質や、綿を様々な角度から知ることができて楽しかったです。

学習の総括

● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

教材作成にあたって全国コットンサミット、日本綿業振興会からの協力を得ることができた。募集チラシの作成、発送および応募者管理について有志社員による専従班の対応とした。

事業全体の計画、学習内容・形態について

座学については動画、画像など多数用いて視聴覚から情報吸収いただけるよう工夫した。大阪産の綿を使い、簡易な糸車を採用し、具体的な実技とした。また大阪市内の綿花関連施設の見学など実地での学習機会を設けた。

地域や他団体・組織との連携について

アクセサリー作りでは綿花などの材料を地域の有志より提供いただき、講座への協力参加いただけた。

● 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

綿花に心寄せる方々に疑問解消または問題解決の糸ぐちを示すことができた。参加者においてそれぞれの地域や職場である就労施設で栽培、糸紡ぎの開始の契機となった。

講座日程の範囲では糸紡ぎを習得できなかった人もいて、練習方法に工夫が必要と考える。

● 事業実施後の展望

近世・近代の大阪の綿作綿業を学び、実際に大阪で収穫した綿を加工しものづくりを体験いただき綿花への関心を深めていただくことができました。来年度から参加者各自で綿花栽培を始めると抱負を伺っておりサポートします。新たに受講希望者をつのり、綿花栽培と綿花加工を広げます。

● その他

コロナの影響により日本綿業会館の使用中止、難波市民学習センター使用定員の削減のため予定の変更が重なったがプログラムの修正で乗り切った。開催中にひとりも感染者がでなかったことに安堵する。

特定非営利活動法人　ペットチャルカの広場

活動目的 コットンの低農薬有機肥料栽培およびペットチャルカによる糸つむぎの普及啓蒙に関する事業を行い、環境の保全と伝統技術の継承に寄与すると同時に繊維資源として今日なお大きく依存している世界のコットンの状況に目をむけながら環境問題や児童労働問題に触れつつ繊維資源のすべてを輸入に頼る日本からフェアトレードを進めて貧富の格差の解消に向けた消費行動のきっかけづくりとしたい。

活動紹介 平成26年4月より大阪市内で河内木綿を栽培開始。平成27年2月から令和2年2月まで、はぐくみ事業として市内小学校にて収穫した綿を使って糸つむぎ体験を毎年実施。平成31年2月から自主開発した糸車「ペットチャルカ」を体験で採用。福島県、長野県、長崎県、鹿児島県、愛知県等で綿花の栽培指導と糸つむぎワークショップを開催した。

活動開始時期　2020年8月　団体構成員数　20人　団体HP　https://petcharkha.org

Aコース

「みんなで楽しく学ぼう、防災の知識！アゲイン」事業

ボランティア講座同好会『ひまわり』

事業のねらい これから30年間80%以上の確率で発生するといわれる南海トラフ巨大地震。一方、1年以上続くコロナ禍は収束の兆しも見えない状態。その中で避難所運営にあたる防災リーダーへの知識と心構えを伝える。

対象	定員	申込者数	参加者数
どなたでも	10人／各回	22人（大人22人 子ども0人）	22人（大人22人 子ども0人）

1 8/5（木）14:00～15:30
「コロナ禍での避難所運営について」

●「コロナ禍での避難所運営マニュアル」（大阪市）の活かし方の検討

講　師　出雲 弘紀（防災士/ボランティア講座同好会『ひまわり』所属）
会　場　大阪市立総合生涯学習センター　第5研修室
参加者数　9人

2 8/19（木）14:00～15:30
「全国の防災先進事例に学ぶ」

●国土強靭化推進室ワーキングで確認した民間の取組事例の紹介と検討

講　師　出雲 弘紀（防災士/ボランティア講座同好会『ひまわり』所属）
会　場　大阪市立総合生涯学習センター　第5研修室
参加者数　6人

3 8/26（木）14:00～15:30
「ゲームで学ぶ防災のコツ」

●タイムアタック、HUGゲームなどを通して防災のリーダーとしての素養を高める

講　師　出雲 弘紀（防災士/ボランティア講座同好会『ひまわり』所属）
会　場　大阪市立総合生涯学習センター　第5研修室
参加者数　7人

参加者の声

●たいへん参考になり感謝しています。防災グッズを至急用意します。
●とても解かりやすかった。
●講座を通して防災の意識が強くなった。

学習の総括

● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

・限られたスタッフ（5名）を資料収集とレジュメ作成に分けて分担を明確にした。
・スタッフが機能的に各セミナーで活躍できるよう、「受付」「コロナ対応」「誘導」「撮影」など分担を決めて、各人のマニュアルにより実施した。

事業全体の計画、学習内容・形態について

・対面式のセミナーの利点を活かして、講座中も質疑応答を交えて効果的な防災知識の伝達が行われた。
・防災グッズの展示などで、具体的な家庭での対応が示せた。

地域や他団体・組織との連携について

夏休みの児童や盆休みの家族連れが参加しやすいように8月に事業実施を計画したが、コロナ禍のため、夏休みの短縮などの影響で子どもの参加が得られなかった。

● 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

①各回20名定員の予定が、コロナ禍のため会場収容人員が18名となり、定員も10名とした。しかし、猛暑日や大雨にもかかわらず、6名から9名の参加を得た。
②グループでの実施はできなかったが、個々人がゲーム形式の学習に取り組み、楽しみながら防災意識が高まった。
③少数精鋭で運営してきたが、グループ員の増強が課題である。

● 事業実施後の展望

6度目の助成事業において、昨年に引き続きグループ独自の企画により、グループ構成員のみの運営（講師の防災士もグループ員）により、参加者に満足頂ける事業が実施でき、さらなる事業実施に自信が持てた。

● その他

・コロナ禍の中で、会場施設の協力もいただきながら、事業目的が達成できた。
・平均年齢70歳、5名のメンバーのため、オンライン講座の開催は次回の課題とした。

ボランティア講座同好会『ひまわり』

活動目的　大阪市いちょう大学講座受講生有志によるボランティア活動を主体とした親睦
活動紹介　市民活動助成事業、総合フェスタへの紙芝居劇による参加
活動開始時期　2013年4月
団体構成員数　5人
団体HP　なし

Aコース

地域で「ICTクラブ」を始めるための担い手養成講座

生涯学習「地域ICTクラブ」連絡会

事業のねらい 学校でもICTが授業に取り入れられたことを機会に、地域でもオンライン会議や「地域ICTクラブ」を始めようという雰囲気が醸成され始めてきた。本年度は退職したICTエンジニア、時間に余裕のできたICTインストラクター経験者などに呼びかけて、生涯学習活動としてのICT講座運営者養成講座を開講し、地域の教育課題に応えたい。

対象	定員	申込者数	参加者数
生涯学習に関心を持つどなたでも	12人	②12人（大人12人 子ども0人）	12人（大人12人 子ども0人）

1 11/6（土）14:00～16:30 「オリエンテーション」

●プログラミング教育の必要性 ●今福地域における地域ICTクラブ

講師 胡中 俊雄（今福地域活動協議会） 参加者数 7人

会場 大阪市立総合生涯学習センター 第3研修室

2 11/13（土）14:00～16:00 「グラフィックプログラミング実習」

●受講生自己紹介 ●プログラミング言語Scratchとは
●Scratchの使い方

講師 中井 貴子（語学塾講師） 参加者数 11人

会場 大阪NPOセンター

3 11/20（土）14:00～16:00 「グラフィックプログラミング実習」

●プログラミングの基本 ●繰り返し処理 ●クローン作成

講師 中井 貴子（語学塾講師） 参加者数 11人

会場 大阪NPOセンター

4 11/27（土）14:00～16:00 「グラフィックプログラミング実習」

●リンゴ落下ゲーム ●かごでリンゴをキャッチ
●リンゴの拡大とゲームの難易度

講師 中井 貴子（語学塾講師） 参加者数 11人

会場 大阪NPOセンター

5 12/4（土）14:00～16:00 「グラフィックプログラミング実習」

●鬼ごっこゲームの作り方 ●Scratchプログラムの機能拡張
●ScratchにAI機能を拡張して付加する実際例

講師 中井 貴子（語学塾講師） 参加者数 10人

会場 大阪NPOセンター

6 12/11（土）14:00～16:00 「グラフィックプログラミング実習」

●ScratchにAI機能を拡張して付加する実際例の復習
●迷路ゲームの作り方 ●新しいスプライトの作成

講師 中井 貴子（語学塾講師） 参加者数 10人

会場 大阪NPOセンター

7 12/18（土）14:00～16:00 「グラフィックプログラミング実習」

●サッカーPKゲームの作り方 ●Scratchプログラミングのまとめ
●受講生の受講感想発表と修了証授与

講師 中井 貴子（語学塾講師） 参加者数 12人

会場 大阪NPOセンター

参加者の声

●小学校でプログラミング教育が始まったと聞いていたので、実際に子どもたちはどんな事を学んでいるのかが分かってよかった。
●今福地域では地域活動協議会がプログラミング教室を主催して実施している事を知って驚いた。自分の住む地域にも働きかけてみたい。
●少人数でフレンドリーな講座運営に感謝している。

学習の総括

● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

生涯学習「地域ICTクラブ」連絡会のメンバーが3年目を迎えて高齢化が進んだ。そのため事業実施主体のサポートメンバーとして本事業の1期修了生、2期修了生の有志に参画してもらい実施体制・組織づくりの若返りを図った。

事業全体の計画、学習内容・形態について

本年度は当初から昨年度までの本講座修了生が事業実施体制に参画してくれて、各自の担当地域の事例発表を中心に事業全体の計画・学習内容・形態を準備していた。しかしコロナ禍が収まらず地域活動は停滞、昨年同様に地域には入れない状態なので、講座本体では本講座修了生が中心となってプログラミング技術習得をめざした。また、講座本体での技術学習と、課外講座での運営ノウハウ学習を行ったのは受講生のアンケートを見ても好評であった。しかし、講座本体時間しか参加できなかった受講生から、本体時間内に組み込んでほしかったとの要望もあった。

地域や他団体・組織との連携について

コロナ禍で感染防止のため地域が外部に対して閉じてしまった。同様に他団体・組織との連携についても感染防止上直接の連携は遠慮せざるを得なかった。

● 事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

・本講座の修了生（1期生・2期生）が集まって任意団体「地域ICTクラブ大阪」を立ち上げた。
・講師の胡中先生の今福教室をモデルとして「地域ICTクラブ大阪」が支援して大正区内の「千島メディカルセンター」と「平尾老人憩いの家」の2か所で「地域プログラミング教室」を開催することが出来た。
・本講座の修了生が勉強会を重ねて本講座の講師・講師補助を務められるように実力をつけた。
・当初予想した生涯学習関係者（生涯学習推進員、生涯学習インストラクター等）の本事業への参加が少なく、今回の熱心な参加者はほとんど今まで地域活動への参加経験を持っておられないようだ。ICT技術は今後の地域課題の解決の有力なツールであることは確かだが、従来の地域関係者にはこのツールへの関心が薄いことが講座を実施してみて感じる。

● 事業実施後の展望

・コロナ禍感染防止上、人と人との直接的な接触は避けねばならないという前提がまず展望の前に立ちふさがる。「不要不急」の事業と「必要緊急」の事業を峻別する英知が必要なようだ。

● その他

災害から地域住民の「いのちを守る」ためのツールとして行政関係者間で「スマホ」の活用が話題となり、「高齢者スマホ講座」があちこちの自治体で開かれるようになった。またその続編としての「フォローアップ講座」への開催要望も強いという。地域の課題解決につなげるため、「不易流行」の地域活動企画をみんなと額を寄せ合って提案し続けていきたい。

生涯学習「地域ICTクラブ」連絡会

活動目的	担い手養成講座の企画・運営
活動紹介	市内で地域活動としてICTクラブを運営している団体が連絡会を結成し協働・広報活動を展開
活動開始時期	2018年4月
団体構成員数	6人
団体HP	なし

Aコース

離れていても心は“密”に「ふれあい食育=オンライン共食」事業

特定非営利活動法人フードラボ

事業のねらい

コロナ禍で閉じこもり気味の生活。三密回避から、人と人との距離も離れがちとなり、食事もついついありきたりになりがち。そんな時だからこそ、心の距離を密にして、安心安全な食の情報をちゃんと知り、家に閉じこもって忘れがちな旬の食を、こころの栄養と共にしっかりと摂取したいもの。そこで、物理的距離は守りながら、オンラインにて触れあえる「食育講座」を、コロナでお困りの飲食店さんや生産農家さんと一緒に「共食」しながら、前向き・笑顔で実施。それをオンラインでより多くの人と共有する。

対象	定員	申込者数	参加者数
どなたでも	会場5組／各回 オンライン 100組／各回	50人 （大人26人 子ども24人）	会場48人 （大人20人 子ども28人） オンライン510人

1 9/26（日）11:30～14:30
**「今必要な旬の“食”
～命を支える香り・味覚とは？～」**

講　師　品川 明（学習院女子大）、黒川薬膳チーム

会　場　食の古民家サロン　　参加者数　会場／24人 、オンライン／62人

2 10/30（日）11:30～14:30
**「究極の状態での“食”
～南極調理隊員さんと共食～」**

講　師　渡貫 淳子（元観測隊調理隊員）、黒川薬膳チーム

会　場　食の古民家サロン　　参加者数　会場／20人 、オンライン／220人

3 11/27（土）11:30～14:30
**「守るべき“食”
～伝統野菜を守る農家さんと共食～」**

講　師　射手矢 康之（射手矢農園）、田中 昌行（お好み焼でん）

会　場　お好み焼でん　　参加者数　会場／4人 、オンライン／228人

参加者の声

- 自分の味覚がこんなに匂いに影響されていることを初めて知った。
- ともだちと一緒に、いろいろと話合いながら食べてかんがえた。いろいろとしらないことがわかった。ともだちからも教えてもらってうれしかった。
- リモートでは空々しくなり、あまり楽しめないかなと思っていましたが、東京にいる人とこんなに離れていても、一緒に同じものを作って食べて愉しめるんだなと気付かされました。

学習の総括

事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

新型コロナウイルス感染症による3密回避の指示により「ふれあい」や、「社会的なつながり」の欠如が危惧された。現状に対して厚生労働省は「新しいつながり事業」の展開を提起している。しかしながらその施策も、繰り返される「緊急事態宣言・まん延防止重点措置」により、対面形式の学習や、楽しく会話しながらの食事などは、到底叶わない状況である。

そこで昨今、ICTを活用したリモート会議システムを使った、コミュニケーションを図ろうとする本事業は、社会的処方という観点からも意味あるプロジェクトとして自負している。実施にあたり、各分野の専門家の意見も伺え大変参考になった。また本事業を受けて新しい集いが生まれ、そこから新事業が開始されようとしていることも有意義な事と考える。

事業全体の計画、学習内容・形態について

今回、ICT活用による遠隔地間での共食と、食の学びの体験を行うものであった。そのため、講師陣の打合せやリハーサルも、全てリモート会議システムを使って実施した。

活動のもうひとつの目的として、RQ①「ICT活用によっての共食には、対面の共食と同様に『食のもつコミュニケーション機能』の効果が得られるか」RQ②「ICT活用による共食においても、『集団への帰属意識』を持ちうるか」を明らかにしようと、インタビュー調査および、アンケート調査を行った。その後、イベント参加前後の考え方の変化などを分析考察した。意義として、コロナ禍収束の見えない中、オンラインによる共食の効果を実証し、対面でなくても可能な、新たな形のコミュニティづくりへの知見提供に結び付くと考える。

地域や他団体・組織との連携について

子ども料理教室「ことこと」を始め、黒川薬膳チームとの協働も、回を追う毎にスムーズに進み、参加者の評価も回を増す毎に高くなっていた。また、ICT技術との連携も、ドッドOffice・株式会社ラッシュとの連携も深まり、今後の協働体制も取りやすくなった。

事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

本事業から、共食の効果は、オンラインにおいても対面時と同様の充分な効果、および、参加者同士の紐帯を強めることが示唆された。むしろ、子ども達においては、オンラインの方が、画面に集中する時間が長く、その効果は3 歳児にも見受けられるなど、幼児教育の観点からも注視すべき結果が見出された。

その結果をもって、共食はICT 活用のオンライン時においても、命題であった「食のもつコミュニケーション機能」は充分に発揮され、むしろその効果は、対面を上回る示唆も導きだされた。また、その「オンラインにおける集い」という方法からでも「集団への帰属意識」の形成が可能なことも明らかになった。

以上の結果から、オンラインによる食のつながりは、コロナ禍のみならず、平時（アフターコロナ・withコロナ）においても社会的紐帯への有用性を持つと考える。この結果が、多様な社会的セクター間における非接触型コミュニケーション構築への一助となり、対面でなくても可能な、新たな形のコミュニティづくりへの知見提供になれば幸甚である。

事業実施後の展望

参加者の中の有志数名が「こういう活動を続けて行きたい」と、集まって会議を開いたらしい。その話合いの中、「地域の新しい居場所づくり」をめざす取組が始まることになった。当団体も、地域づくりに繋がる活動の一環として、精一杯応援してゆく所存である。本事業が、その契機となったことは誠に嬉しい限りである。

特定非営利活動法人フードラボ

活動目的　誰もが健康で文化的な生活を実践するための基本要件たる「食」に関する知識の普及・啓発および情報提供等をおこなう。これにより、自然との共存を考えながら、からだにやさしい食生活の普及・啓発活動を通じて、真に人間性あふれたより健康で心豊かな福祉社会の創造に寄与することを目的とする。

活動紹介　大阪駅北側のうめきた二期開発地で「都会のど真ん中でソバ畑」と題し、ソバを種播きから手刈りで収穫・昔ながらの唐箕で脱穀～手打ちし皆で食すまでを3年間実施。また薬膳の効能を活かした「親子薬膳教室」や、味覚教育・匂いの実験。毎年夏に北区や大正区の子ども子育てプラザでの「日本の食文化に親しもう！おじいちゃんおばあちゃんと楽しくそば打ち」。留学生とのそば打ち交流等。

活動開始時期	団体構成員数	団体HP
2009年4月	10人	http://www.npo-foodlab.org

Bコース

Let's enjoy!
はじめての食育cooking

YON kitchen（よん きっちん）

事業のねらい 次世代を担う子ども達や子育て中の親世代、親子、大人を対象に食の楽しさや大切さを伝え、食について体験の場を提供します。「食べる力」＝「生きる力」を育み、食を取り巻く暮らしの課題解決に貢献します。

対象	定員	申込者数	参加者数
4歳以上の子ども、親子	①4組/各回 ②2組/各回 ③大人5人/各回 子ども8人/各回 ④4組/各回	101人（大人38人 子ども63人）	95人（大人36人 子ども59人）

1 8/9（月・祝） 10:30～11:10,12:00～12:40 13:30～14:10,15:00～15:40

「はじめての食育cooking～水族館のむゼリー～」

講師 YON kitchenスタッフ
会場 旭区民センター 参加者数 33人

2 9/20（火・祝） 12:00～12:40,12:50～13:30 13:40～15:20,14:30～15:10

「はじめての食育cooking～もちもちお月見団子～」

講師 YON kitchenスタッフ
会場 キタの北ナガヤ 参加者数 12人

3 11/23（火・祝） 11:00～12:00,14:00～15:00

「はじめての食育cooking ～ママ座学講座×こども料理ワークショップ～」

講師 伊藤 有理（管理栄養士/国際中医師）、YON kitchenスタッフ
会場 クレオ大阪東 参加者数 28人

4 12/25（土） 10:30～11:20【オンライン(Zoom)】 13:00～14:00,14:00～15:00 15:00～16:00,16:00～17:00

「はじめての食育cooking ～クリスマスワークショップ～」

講師 YON kitchenスタッフ、池田 重樹（バルーンアーティスト）
会場 β-本町橋 参加者数 22人

参加者の声

- コロナでなかなかイベントがないので夏休みの楽しい思い出になりました。
- とてもたのしかった。おだんごのつくりかたがおそわれてうれしかった。おだんごをこねこねするのがたのしかった。
- 大人もこどもも別々のことを学んでも、両方満足できる内容だったのですごく良かったです。

学習の総括

事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

- 団体メンバーそれぞれが会場視察し、設備や器具の確認を事前に行った。
- 事業内容、材料の手配、参加者の人数・アレルギーの有無、タイムスケジュールなど綿密に連絡を取り合った。
- コロナ感染対策について、人数制限、分散型ワークショップ、徹底した消毒を心がけた。

事業全体の計画、学習内容・形態について

- 会場決定後、季節を考慮してレシピ立案計画した。
- 募集人数は定員の半数、各テーブル1組、開始時間を分散させて、各テーブルで個別にワークショップをするなど臨機応変に対応した。
- 学習内容については、はじめての食育cookingのテーマに沿うように、4歳からできる内容にし、保護者も一緒に楽しめる内容にした。
- ケガ、食中毒に対応するイベント保険に加入し万が一に備えた。
- 広報面は、いちょう並木、いちょうネットに掲載の協力を頂き、講座内容がわかりやすいチラシを作成し、図書館や子育て関係の施設に配架して頂く様お願いした。
- 親世代（30～40代）の年齢層を考慮して、SNS告知（Instagram、情報ネットいこーよ）に掲載した。

地域や他団体・組織との連携について

- 開催場所を大阪市内各所で行った。
- β-本町橋にて、Wi-Fi環境設備があるところでのオンライン講座を開催した。また、キッチン設備のないところでのcookingの可能性も見いだした。
- 環境問題に取り組む団体や、農業に関わる団体とのつながりがうまれ、今後の活動の広がりに展開がもてた。

事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

成果：事業実施後に参加者アンケートでは大変満足したと高評価を得られた。理由として、親子の時間がとれた、こどもが楽しんでいた、季節にあった料理が学べた、コロナ禍でイベントの中止が相次ぐなか貴重な体験ができた、家でもできる料理が習えたなどの記入があった。食育活動を通して、親子のコミュニケーションがとれ子育て支援につながる活動である気づきがあった。食の大切さ、楽しさを体験することで、自分の健康を守ること、身近な人への感謝の気持ちを養い、食べ物を大切にする学びにつながった。
課題：当日、天候の悪化、体調不良によりキャンセルが相次いだ。材料のロス、キャンセルが課題。

事業実施後の展望

YON kitchenが大切にしている五感のワークショップを軸に、防災食、SDGsなどを取り入れたワークショップを展開していきたい。また、男女共同参画にも注目し、男性の育児、家事参加にもつながるワークショップも企画していきたい。長引くコロナではあるが、対策を万全にし、広い設備でより子ども達や親子に喜んでいただける企画を考えていきたい。

YON kitchen

活動目的 こどもや親を対象に、料理教室や実験教室を実施し、地域の皆様に喜んでいただけるワークショップ中心の食育活動をする。

活動紹介 体験して学べる子ども達の博物館“キッズプラザ大阪”パーティキッチンにて指導員を務めたメンバーで2021年に結成されました。独自の食育活動を展開していきます。「つくる・たべる・えがおになる」をテーマにワークショップの参加者の笑顔を引き出します。

活動開始時期 2021年1月 団体構成員数 5人 団体HP https://www.instagram.com/yonkitchen

Bコース

自分らしく生きる ＜権利＞について学ぼう！2021

特定非営利活動法人子どもセンターあさひ

事業のねらい 子どもの権利の理念を大切に子どもと向き合うということは、自らの権利を大切にし、相手を尊重し対等な関係性を築くことであると考えます。＜子どもの権利条約＞＜アサーティブコミュニケーション＞について学び、自分の権利を大切にし、他者の権利をも大切にできるように学びます。

対象	定員	申込者数	参加者数
どなたでも	16人	13人（大人13人 子ども0人）	13人（大人13人 子ども0人）

1 11/7（日）13:30〜15:30
「アサーティブコミュニケーション ～お互いを尊重するコミュニケーションとは～」

講　師　尾崎 貴子（NPO法人アサーティブジャパン）

会　場　子どもセンター　参加者数　13人

令和3年度　大阪市NPO・市民活動　企画助成事業

子どもセンターあさひ学習会　～自分らしく生きる〈権利〉について学ぼう！2021～

アサーティブ
コミュニケーション

お互いを尊重するコミュニケーションとは？

アサーティブコミュニケーションとは「自分も相手も大切にした、誠実で対等、率直なコミュニケーションの理論と方法」です。子ども達には、自分を大切にし、仲間のことも大事にしながら、自己表現できるようになってほしいと願いますが、引っ込み思案だったり、ちょっと乱暴な伝え方になってしまう子もいますよね。大人にとってもむずかしい…。でもそれは性格の問題ではありません。自分も相手も大切にできるコミュニケーションの取り方を、ロールプレイなどを通し、まずは大人が学び実践していきましょう！

2021年 11/7（日）
13：30～15：30
会　場：子どもセンター
（大阪市旭区高殿6-17-10）
講　師：尾崎貴子さん
（アサーティブジャパン認定講師）
対　象：どなたでも（大人向け）
参加費：会員・学生500円　／一般800円
定　員：16名（要事前申込）

申込はこちらより →

主催：NPO法人子どもセンターあさひ
大阪市旭区高殿6-17-10-201
TEL:06-6951-0055／FAX:06-6951-0056
E-mail：asahi@kodomo-center.org

自分の気持ちを率直に伝えたり、自分の考えをきちんと伝えることは難しい、しんどい、と感じることはありませんか。また言いすぎてしまった、もっとはっきりものが言えたらいいのに、上手に断れるようになりたい、攻撃的な言い方をやめたい、自信をもって人と接することができるようになりたい…。でも、どうやったらそんなふうにコミュニケーションすることができるのでしょうか。その道しるべとなってくれるのが「アサーティブ」です。アサーティブネス（Assertiveness）の訳語は、「自己主張すること」。でも、アサーティブであることは、自分の意見を押し通すことではありません。自分の気持ちや意見を、相手の気持ちも尊重しながら、誠実に、率直に、そして対等に表現することを意味します。しかし、長年身についた言い方の癖や態度はなかなか変えられません。それには練習が必要です。自分のコミュニケーションパターンに気づき、それをアサーティブなものに変えていく学びと練習が、アサーティブ・トレーニングなのです。（「アサーティブジャパン」HPより）

※新型コロナウイルス感染症の予防対策として、入館時の検温・消毒・マスク着用などご協力をお願いします。

参加者の声

- 自分に対して素直・誠実であることが、相手を思うことにつながる発想はいいなと思いました。日常生活でも使えそうな断り方も今後活かせそうです。
- 12の権利を読みあげて、最後に先生のお話を聞いた時に、ここで初めて“そうや、子どもにも断る権利があるんや！”と気づきました。ふだん素直に動いてくれない子どもにイライラしてたけど、おちついて、権利があると思ったら、自分のイライラをおさえられそうです。
- アサーティブという初めて聞いた言葉が少しわかりました。自己主張するのは難しいことですが、大事なことですね。聞けてよかったです。少しずつ自分のできることからやっていきたいと思います。

学習の総括

● 事業実施にあたっての工夫

事業全体の計画、学習内容・形態について

対話型やロールプレイでの学習を多くした構成。

地域や他団体・組織との連携について

子どもに関わる活動をされている団体への案内。関係団体によるSNSでのひろがり。

●事業実施の成果と課題（地域の課題解決につながったか）

＜アサーティブコミュニケーション＞について学ぶことにより、自分の権利を大切にすることが他者の権利をも大切にできる、ということを参加者の多くが気づく機会となりました。職場や家族、子どもとの関係性などを見直す機会となり、日々の生活に活かしたいと好評でした。

● 事業実施後の展望

日々の生活に活かせる学びの場が必要であると参加者と共有でき、今後は親子でも学べる場、実践に活かせる学習の場をつくっていきたいと考えています。

● その他

当法人は＜子どもの権利条約＞の理念にそって活動していますが、まだまだ「子どもの権利」は社会に浸透していません。子どもは大人の所有物ではなく、一人の権利をもつ人間であるということを共有する学びの場をもつために計画しました。

昨年「子どもの権利条約」のイラスト展を開催しましたが、ぜひ講師によるお話から学びたいとの声が多く、今回はさらに内容を発展させて、子どもの権利について描かれたイラストをもちいたワークショップを通し、親子で学ぶものを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の流行の影響により不開催としました。

子ども達には、自分も周りのことも大切にできる人になってほしいと願いますが、そのためには、そのためのコミュニケーション力を大人自身が身につける必要があります。自分の気持ちや意見を、相手の気持ちも尊重しながら、誠実に、率直に、そして対等に表現するコミュニケーション手法である＜アサーティブコミュニケーション＞を学びました。

特定非営利活動法人子どもセンターあさひ

活動目的 異年齢の子どもたちが共に育ちあう場とし、週末等を地域の子どもたちに広く開放し、子どもと青年が中心になって、異世代交流を促し、環境・人権・平和・国際協力などについて学び合い、男女参画社会を目指したまちづくりに地域の人たちと共に取り組むことで、子どもと青年の未来をきり開く教育・文化を発展させることを目的とする。

活動紹介
- 体験学習事業「寺子屋」・「わくわく子どもキッチン」／自然体験「田植え・稲刈り」「キャンプ」
- 舞台鑑賞事業　年間2回
- 学習会／講演会年間2～3回
- 地域住民との交流事業　まつり年間1回
- 子育て支援事業「リラミック～リラクゼーションリトミック～」月2回

活動開始時期	団体構成員数	団体HP
2002年5月	5人	www.kodomo-center.org/

大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 募集について

大阪市NPO・市民活動 企画助成事業の募集のご案内は、総合生涯学習センターのホームページ・SNSや、大阪市内の市民学習センター・区役所・区民情報センター・図書館等で配架予定の募集パンフレットをご覧ください。

HP：大阪市立総合生涯学習センター
https://osakademanabu.com/umeda/

Facebook：
https://www.facebook.com/sougoullc/

令和3年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 事業実施の流れ

●募集受付 …… 令和3年1月5日（火）～2月28日（日）
●個別相談 …… 令和3年1月5日（火）～随時対応
●有識者会議 …… 令和3年3月26日（金）
●実施団体への説明会 …… 令和3年4月17日（土）
●事業の実施 …… 令和3年7月1日（木）～令和4年1月31日（月）

【助成団体の取り組み】
・企画・実施の準備
・チラシの作成・広報、受講者募集の受付
・講座等の実施
・アンケート回収
・報告書類の作成・提出

【総合生涯学習センターの支援】
・実施経費の助成（委託対象経費の75%以内で上限20万円まで）
・「いちょう並木」や「いちょうネット」への記事掲載などの広報協力
・総合生涯学習センターや阿倍野・難波の市民学習センターの会場確保

●中間交流会の開催 …… 令和3年8月21日（土）
●報告会の開催 …… 令和4年2月5日（土）※オンライン実施

お問い合わせ

大阪市立総合生涯学習センター

〒530-0001　大阪市北区梅田1-2-2-500（大阪駅前第2ビル5・6階）
TEL：06-6345-5004　FAX：06-6345-5019
https://osakademanabu.com/umeda/

開館時間　午前9時30分～午後9時30分（日・祝は午後5時まで）
休館日　毎月第1・第3月曜日/年末年始（12月28日～1月4日）

令和3年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 報告書

編　集　大阪市立総合生涯学習センター
（指定管理者:大阪教育文化振興財団・SPS共同事業体）
大阪市北区梅田1-2-2-500
ＴＥＬ　06-6345-5004
発　行　大阪市教育委員会
発行日　令和4年3月